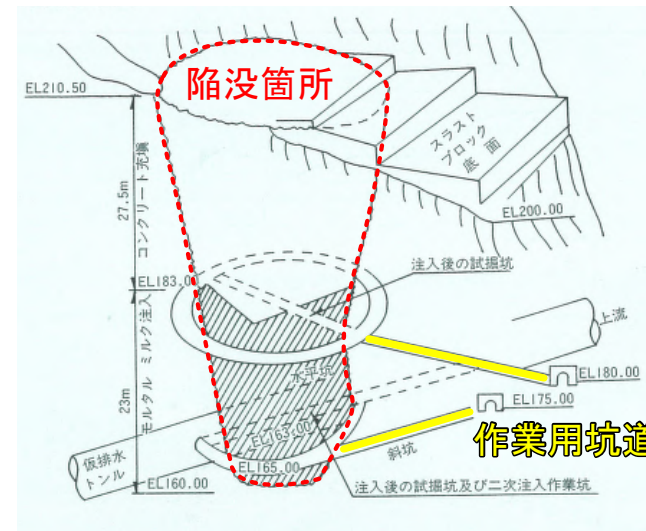


ダム右岸陥没事故の発生とその対策

昭和36年4月22日夜半に、グラウト施工中の作業員の足下が突然、崩落し仮排水路が閉塞しました。

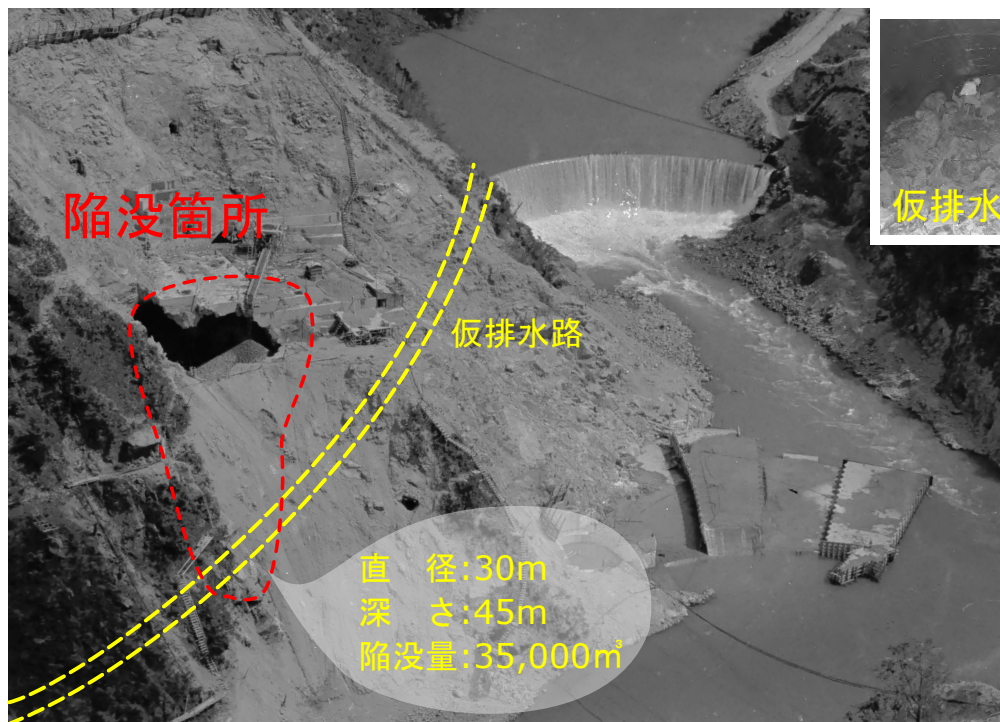
陥没部は処理が必要な断層の中央に位置しており、大規模かつ重大なものでした。

強度に対する安全性及び均一性をもった置き換えとなるように、模型実験を主体として総合的に処理方法が検討され、陥没処理を実施しました。



陥没部処理の概要

作業用坑道は現在も監視用として使われています



仮排水路閉塞により水没したダムサイト(昭和36年4月24日)



処理後のダムサイト(昭和37年11月)